

報 告

第 36 回日本チェアスキー大会

全国頸髄損傷者連絡会 宮野 秀樹

1. はじめに

1992年に交通事故により頸髄を損傷、C4完全麻痺となって22年。スキーの経験はあるけれど、それは肢体不自由になる前の話。「もう二度と滑ることはない」と諦めるよりも、「出来なくて当たり前」を受け入れていた私の元に突如降って湧いた「チェアスキー大会参加」の話。気がつけば「第36回日本チェアスキー大会」に参加するべく、福島県会津高原スノーリゾートたかつえスキー場に来ていました。

2. 参加の経緯

リハ工学協会にはチェアスキーに携わっている関係者が多く、私がリハ工学協会の活動で接する方々のほとんどが、その関係者であるため、自然にチェアスキーに関する話題が多くなる。最初は「宮野さんも滑れたらいいよね」という会話が、「宮野さん、滑ってみませんか？」に変わるのも実に自然な流れでした。そこに魅惑の言葉「日本でC4がチェアスキーをやるのは初めてじゃないかな?」。この言葉は、元来の闘争心と関西人特有の「いっちゃよかみ」の性分をくすぐるには十分でした。とは言っても、簡単に「参加する」と決められるものではありません。日本チェアスキー協会普及部のみなさんが「最良のサポートを用意しますので安心してください。」との言葉が最終的に私に決断させました。

3. 競技までの準備

大会に参加するにあたり、私に求められたのは「私の体に合わせたチェアスキーの製作」と「寒冷環境における自律神経の変動(体温調整)への対策」でした。上肢の完全麻痺と体幹機能障害により姿勢保

持が困難なため、スキー板が2本で転びにくい「バイスキー」に乗車することになりました。姿勢保持のために工夫されたバックサポートを取り付け、除圧と乗り心地を考慮したクッションを採用したC4スペシャル仕様バイスキーをエンジニアにお願いして製作してもらいました。

防寒対策は、頸髄損傷でチェアスキー経験者のアドバイスと指示の元、防寒・防水加工が施されたスキーウェア・グローブ・スノーブーツと、発熱・保温機能のあるインナー&タイツを用意しました。また、「貼るカイロ(足用含む)」を大量購入し、ヘルメットやゴーグルやネックウォーマーも揃え、寒さへの対策を万全にしました。もちろん私のチャレンジに携わってくれる関係者のサポート体制も万全なものになっていきました。

4. チャレンジの結果

言葉では伝えられない感動がありました。かつてスキーをしていた自分の姿のイメージは、長い年月によって忘れ去っていましたが、全く別のイメージとして私の中に戻ってきました。低い位置で感じるスピード、顔に当たって後ろに舞い散っていく雪、雪面からダイレクトに伝わる振動。目に入っては飛んでいく景色に興奮し過ぎて呼吸をするのも忘れそうになりました。また、多くのチェアスキーヤーと一緒に滑走できたことも感動しました。体温調節の課題は残しましたが、チャレンジは大成功で終えられました。

もっと説明したい。もっと伝えたいのですが、文量の制限があるこの場ではこれ以上詳しく書くことができません。私のチャレンジは「第30回リハ工学カンファレンス in おきなわ」で詳細に報告する予定です。よろしければ聞きに来てください。

最後に、このチャレンジを支援して下さった日本チェアスキー協会、リハ工学協会、エンジニア、ボランティアのみなさんに心より御礼申し上げます。

 全国頸髄損傷者連絡会

〒673-1473 兵庫県加東市下三草 375-3 (自宅)